

3. 社会環境

(1) 人口・世帯

本市の人口は、平成 12 年の国勢調査では 77,612 人で、ピーク時の昭和 55 年に比べて 4,573 人の減少を見せています。年齢構造をみると、平成 7 年に年少人口(0～14 歳)を老年人口(65 歳以上)が上回り、平成 12 年には年少人口割合が 15.3%、老年人口割合が 20.8%と、近年、少子高齢化の傾向が急速に進んでいます。

一方、世帯数は核家族化や単独老人世帯の増加を背景に年々増加傾向にあり、平成 12 年の国勢調査では 22,586 世帯、1 世帯当たり人員は 3.44 人となっています。

表 1-1-6 に昭和 55 年度から平成 12 年までの本市の人口・世帯の推移を示します。

表 1-1-6 人口・世帯の推移

単位：人、戸、%

調査年次	総人口	年少人口 0～14 歳 (構成比)	生産年齢人口 15～64 歳 (構成比)	老年人口 65 歳以上 (構成比)	世帯数	1 世帯当たり人員
昭和 55 年	82,185	18,772 (22.8)	53,917 (65.6)	9,496 (11.6)	19,451	4.23
昭和 60 年	81,863	17,206 (21.0)	54,308 (66.3)	10,349 (12.6)	20,139	4.06
平成 2 年	80,531	15,208 (18.9)	53,389 (66.3)	11,934 (14.8)	20,819	3.87
平成 7 年	79,806	13,721 (17.2)	52,172 (65.4)	13,907 (17.4)	21,864	3.65
平成 12 年	77,612	11,890 (15.3)	49,577 (63.9)	16,123 (20.8)	22,586	3.44
旧柳川市	41,815	6,284	26,489	9,042	12,153	3.44
旧大和町	17,343	2,599	11,141	3,581	4,743	3.66
旧三橋町	18,454	3,007	11,947	3,500	5,690	3.24

資料：国勢調査

(2) 土地利用

本市の総面積は 76.90km²で、そのうち 53.9%が耕地、15.9%が宅地として利用されており、平坦な地形を効率的に活用した土地利用が図られています。表 1-1-7 に本市の平成 15 年度における土地利用の状況を示します。

表 1-1-7 土地利用の状況

	面積 (km ²)	面積比 (%)		
		耕地	宅地	雑種地等
柳川市	76.90	53.9	15.9	30.2
旧柳川市	37.23	51.5	17.3	31.2
旧大和町	22.78	58.8	13.0	28.2
旧三橋町	16.89	52.3	16.9	30.8

資料：平成 15 年度 土地に関する概要調査

(3) 歴史・文化

○歴史

本市は、平成 17 年 3 月 21 日に、柳川市、大和町、三橋町の 1 市 2 町の市町合併により、新しい「柳川市」としての歩みを始めたところです。

以下に、旧柳川市、旧大和町、旧三橋町の沿革を示します。

(旧柳川市の沿革)

明治 22 年 4 月 1 日 1 町 8 村が誕生。昭和 12 年 1 月 1 日に浜武村と久間田村が合併し、昭代村が誕生。昭和 26 年 4 月 1 日には柳河町、東宮永村、西宮永村、城内村、沖端村、両開村が合併し、翌年 4 月 1 日に市制を施行。昭和 30 年 1 月 1 日に昭代村、蒲池村を編入し、柳川市となった。

(旧大和町の沿革)

明治 9 年に 22 村が合併し、徳益・豊原・塩塚・六合・鷹ノ尾・栄・明野・皿垣開・中島の 9 村になる。明治 22 年 4 月 1 日に、塩塚・鷹尾・有明の 3 村になり、明治 40 年 3 月 20 日には、この 3 村が合併し、大和村が誕生。昭和 27 年 9 月 1 日に町制を施行し、大和町となった。

(旧三橋町の沿革)

明治 22 年 4 月 1 日の市制町村制の施行により、川北村・川辺村・垂見村・宮の内村の 4 か村が誕生。明治 40 年 3 月 20 日に 4 村が合併し、三橋村が誕生した。昭和 27 年 6 月 1 日、町制を施行し、三橋町となった。

○文化

指定文化財として国指定 7 件、県指定 9 件、市指定 33 件があり、地域固有の資源として観光利用が図られるなど、その保存・活用が取り組まれています。

表 1-1-8 に本市の国・県による指定文化財の状況を示します。

表 1-1-8 指定文化財の状況

指定区分	名称	指定区分	所在地	指定年月日
国	短刀 銘吉光 附 腰刀拵	国宝	新外町	昭和 28 年 11 月 14 日
国	剣 銘長光	重要文化財	新外町	昭和 12 年 5 月 25 日
国	大友家文書 附 文書袋五口 矢根木型三箇	重要文化財	隅町 柳川古文書館(寄託)	平成 5 年 6 月 10 日
国	松濤園	名勝	新外町	昭和 53 年 8 月 25 日
国	戸島氏庭園	名勝	鬼童町	昭和 53 年 8 月 25 日
国	カササギ生息地	天然記念物	柳川市	大正 12 年 3 月 7 日
国	鷹尾神社大宮司家文書	重要文化財	隅町 柳川古文書館	平成 11 年 6 月 7 日
県	旧戸島家住宅	有形文化財	鬼童町	昭和 32 年 4 月 5 日
県	伝習館文庫	有形文化財	隅町 柳川古文書館	昭和 27 年 12 月 23 日
県	三尊預修板碑	有形文化財	本城町	昭和 44 年 9 月 4 日
県	日子山神社風流	無形民俗文化財	古賀	昭和 33 年 3 月 20 日
県	どろつくどん 附 関係資料一括	無形民俗文化財	柳川市	昭和 41 年 10 月 1 日
県	安東省菴の墓	史跡	旭町	昭和 33 年 4 月 3 日
県	北原白秋生家	史跡	沖端町	昭和 43 年 10 月 12 日
県	熊野宮大藤(中山の大フジ)	天然記念物	三橋町 中山熊野宮	昭和 52 年 4 月 9 日
県	今古賀風流	無形民族文化財	三橋町 今古賀竜神宮 (三嶋神社内)	昭和 51 年 4 月 24 日

資料：教育委員会

●旧戸島家住宅（県指定建造物）と戸島氏庭園（国指定名勝）

寛政年間（1789～1801 年）、藩の中老職にあった吉田兼壽により築造されました。茶室を配した萱葺入母屋の住宅と庭園で、のちに時の藩主に献上され、茶室として利用されました。建物は県指定の文化財となっており、掘割の水を引き入れた築山山水の庭園は国の名勝に指定されています。



●御花・松濤園（国指定名勝）

時の藩主の別邸として元禄 10 年（1697 年）に建造されました。3,300 m²の広大な敷地には日本三景の一つ松島を模した庭園「松濤園」があり、国指定の名勝となっています。隣接する西洋館は明治 44 年（1911 年）に造られたもので、近代のモダンな建築様式を今に伝えます。

●柳川城本丸址（市指定史跡）

永禄年間（1558～1569 年）に、蒲池鑑盛によって築かれました。天正 15 年（1587 年）に 12 万石を領し、立花宗茂が入城しました。その後、慶長 5 年（1600 年）筑後一円 33 万石の領主となった田中吉政が柳川城を整備し 5 層の天守閣を築きましたが、明治 5 年（1871 年）の失火によって炎上しました。



●福厳寺

黄檗宗の禅寺で、柳川藩主立花家の菩提寺です。天正 15 年（1587 年）に、宗茂の岳父・戸次道雪の菩提を弔うために建立されました。本堂には歴代藩主の位牌が安置され、本堂裏には歴代の藩主たちが眠ります。西側の墓地には作家檀一雄や長谷健の墓もあります。

●三忠苑・安東省菴の墓（県指定史跡）

柳河藩の学問の祖といわれ3代の藩主に仕えた儒学者・安東省菴の墓で、県の史跡に指定されています。墓所は市内浄華寺にあり、省菴が師事した朱舜水にちなんだ庭園「三忠苑」にあります。



●真勝寺

柳川に居城し、数々の偉業を成しとげた田中吉政の息子・忠政が、慶長16年（1611年）に、父の遺骸を葬り直し、その墓上に建てた伽藍が今日の真勝寺です。真宗東本願寺派の寺で、本堂自体が吉政の墓とされています。

●日子山神社風流（県指定民俗文化財）

天文年間（1532～54年）に創建された神社で、10月10日に行われる風流が有名です。風流は約300年の歴史がある古式ゆかしい神事であり、17歳から27歳までの鼓打ちの青年が中心となり、大太鼓、鐘、笛方等とともに座元から神社までを練り歩きます。



●鷹尾神社大宮司家文書（国指定重要文化財）

中世、瀬高下庄の鎮守守であった鷹尾神社と同社の大宮司職を勤めた紀氏の子孫である鷹尾家が所蔵する文書のうち341点が、国の重要文化財に指定されており、質・量ともに一地方の神社の相伝文書としては稀有といわれています。

●今古賀風流（県指定民俗文化財）

風流は太鼓と鉦の三拍子の音の響きから「ドンキャンキャン」とも呼ばれ、室町時代初期に始まったとされます。しゃぐまと呼ばれる赤毛をつけた子どもたちが三人一組になり謡にあわせて太鼓を打ち、豊穡の喜びを表します。



●中山の大フジ（県指定天然記念物）

江戸時代に地元の酒屋の『万しゃん』が、大阪の野田のフジの種を持ち帰り植えたといわれています。福岡県指定の天然記念物にも指定されている名木で、毎年4月中下旬に満開となります。



●北原白秋生家（県指定史跡）

詩人・北原白秋の生家は明治34年の大火で大部分が焼けてしまいましたが、昭和44年に県文化財の指定を受け残った母屋が復元されました。現在では、白秋の遺品や原稿などが展示され、一般に公開されています。また隣接して、昭和62年、生誕百年を記念して「柳川市立歴史民俗資料館（白秋記念館）」が建てられました。

図1-1-5に本市における文化財等の位置図を示します。

図 1-1-5 文化財等位置図

(4) 交通

○道路

本市の幹線的道路として、国道は南北方向に熊本市から佐賀市に至る国道 208 号、柳川市から福岡市に至る国道 385 号、東西方向には大川市から宮原町（熊本県）に至る国道 443 号があります。主要地方道は、大牟田川副線、久留米柳川線、大和城島線があります。

これらの道路は本市の産業・生活の重要な基盤となっていますが、近年の交通量の増加に伴う渋滞の発生などが問題となっており、道路網の整備が急務となっています。そのことを踏まえ、現在、有明海沿岸地域へのアクセス向上のため有明海沿岸道路（国道 208 号バイパス）の整備が進められています。また、隣接する瀬高町に九州縦貫自動車道（仮称）瀬高インターチェンジが設置されることが決定しており、現在整備中の国道 443 号三橋瀬高バイパスを介し、有明海沿岸道路と九州縦貫自動車道が連結されれば、南筑後における交通の要衝としての本市の地位向上が図られるものと期待されています。

市道の道路整備状況は舗装率 75.6%、改良率 60.7%となっていますが、幅員が狭い区間や屈曲した箇所がみられるほか、歩行時の危険性の高い道路が存在するなど歩道の整備を含めた改良・整備が求められています。

今後の整備方針としては、安全性や防災性、快適性、文化性といった多様な側面に配慮し、特に観光都市としての景観や少子高齢化に対応したバリアフリー化を進めていくことが求められています。

表 1-1-9 に平成 14 年の本市の市道の整備状況を、また図 1-1-6 に本市の道路網図を示します。

表 1-1-9 市道の状況（平成 14 年）

単位：m、%

	実延長	改良済み			未改良			改良率	舗装率
		5.5m 以上	5.5m 未満	計	5.5m 以上	5.5m 未満	計		
柳川市	978,263	73,186	520,569	593,755	175	384,333	384,508	60.7	75.6
旧柳川市	452,507	33,804	211,445	245,249	21	207,237	207,258	54.2	76.6
旧大和町	286,414	19,836	179,359	199,195	105	87,114	87,219	69.5	77.6
旧三橋町	239,342	19,546	129,765	149,311	49	89,982	90,031	62.4	78.6

資料：市建設課

図 1-1-6 道路網図

○公共交通

本市の公共交通は、福岡・大牟田を結ぶ鉄道西鉄天神大牟田線とバス路線が民間事業者によって運行されています。

西鉄天神大牟田線は市内に蒲池、矢加部、柳川、徳益、塩塚、中島の6つの駅を構え、福岡・久留米方面への通勤・通学に利用されています。特に柳川駅は特急電車の停車駅となっていることから近隣市町からの利用者も多くなっています。

しかし、近年のモータリゼーションの進展等を背景に乗降客数は減少傾向を見せています。公共交通の利用促進は、環境面からも重要であり、更なる利便性の強化を関係機関に働きかけている状況です。

路線バスは3路線運行され市民の足として重要な役割を果たしていますが、利用者の減少に伴い路線の廃止や運行本数の縮小が進み利便性が損なわれつつあります。しかし、バス交通は児童・生徒や高齢者等の日常的な「足」として重要な役割を担っていることから、現在の路線サービス水準の維持・向上やコミュニティバスなどの運行検討を関係機関に働きかけている状況です。

表 1-1-10 に西鉄天神大牟田線の市内各駅における乗降客数の推移を示します。

表 1-1-10 西鉄天神大牟田線乗降客数の推移

単位：人

		平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
蒲池	年間	228,490	216,810	201,115	174,105	165,710
	1 日平均	626	594	551	477	454
矢加部	年間	48,545	47,450	43,435	42,705	40,515
	1 日平均	133	130	119	117	111
柳川	年間	6,197,335	5,864,455	5,530,845	5,366,230	5,120,220
	1 日平均	16,979	16,067	15,153	14,702	14,028
徳益	年間	122,640	123,735	114,245	105,120	97,455
	1 日平均	336	339	313	288	267
塩塚	年間	361,715	315,360	288,350	265,720	251,485
	1 日平均	991	864	790	728	689
中島	年間	629,260	563,560	504,430	477,420	455,885
	1 日平均	1,724	1,544	1,382	1,308	1,249
合計	年間	7,587,985	7,131,370	6,682,420	6,431,300	6,131,270
	1 日平均	20,789	19,538	18,308	17,620	16,798

資料：西日本鉄道株式会社

(5) 上下水道

本市の上水道普及状況は、平成 14 年度において、行政区域内人口 77,484 人に対して給水人口 76,048 人で普及率 98.1%となっています。

下水道は旧柳川市域と旧三橋町域で平成 14 年 3 月から公共下水道の一部供用が開始され、現在も計画的な事業の展開に取り組んでいるところです。また、公共下水道区域外においては合併処理浄化槽の設置者に対する補助金の交付等に取り組んでいます。

しかし、依然として生活排水が掘割や河川へ流入し、有明海の水質へも影響を及ぼしているため、早急な下水道整備が求められているところです。

表 1-1-11 に本市の平成 14 年度における上水道普及状況を、表 1-1-12 に本市の平成 14 年度における公共下水道の普及状況を、図 1-1-7 に本市の平成 16 年作成の公共下水道計画図を示します。

表 1-1-11 上水道の普及状況

	行政区域内人口 (人)	給水人口 (人)	給水戸数 (戸)	普及率 (%)	施設能力 (m ³)	年間配水量 (m ³)	1 日最大配水量 (m ³)	1 日平均配水量 (m ³)
柳川市	77,484	76,048	23,397	98.1	35,060	7,201,297	28,627	19,735
旧柳川市	41,854	41,854	13,506	100.0	24,300	5,435,772	20,603	14,898
旧大和町	17,463	17,149	4,502	98.2	7,900	1,436,749	6,817	3,936
旧三橋町	18,167	17,045	5,389	93.8	2,860	328,776	1,207	901

旧柳川市の年間配水量等は三橋町給水分を含む

資料：平成 14 年度 地方財政状況調

表 1-1-12 公共下水道の普及状況

項目			柳川市
事業区域	処理面積	計画	706 ha
		認可	227 ha
		現在処理	49 ha
	処理人口	計画	24800 人
		認可	9100 人
		現在処理	3811 人
	計画汚水量	計画	18100 m ³ /日最大
		認可	4200 m ³ /日最大
		現在処理	2300 m ³ /日最大
雨水排除方式			分流式
処理場	処理能力	計画	18100 m ³ /日
		認可	4600 m ³ /日
		現在処理	2300 m ³ /日
	場所		柳川市橋本町
	面積		660 m ²

資料：平成 14 年度決算統計・柳川、三橋下水道組合

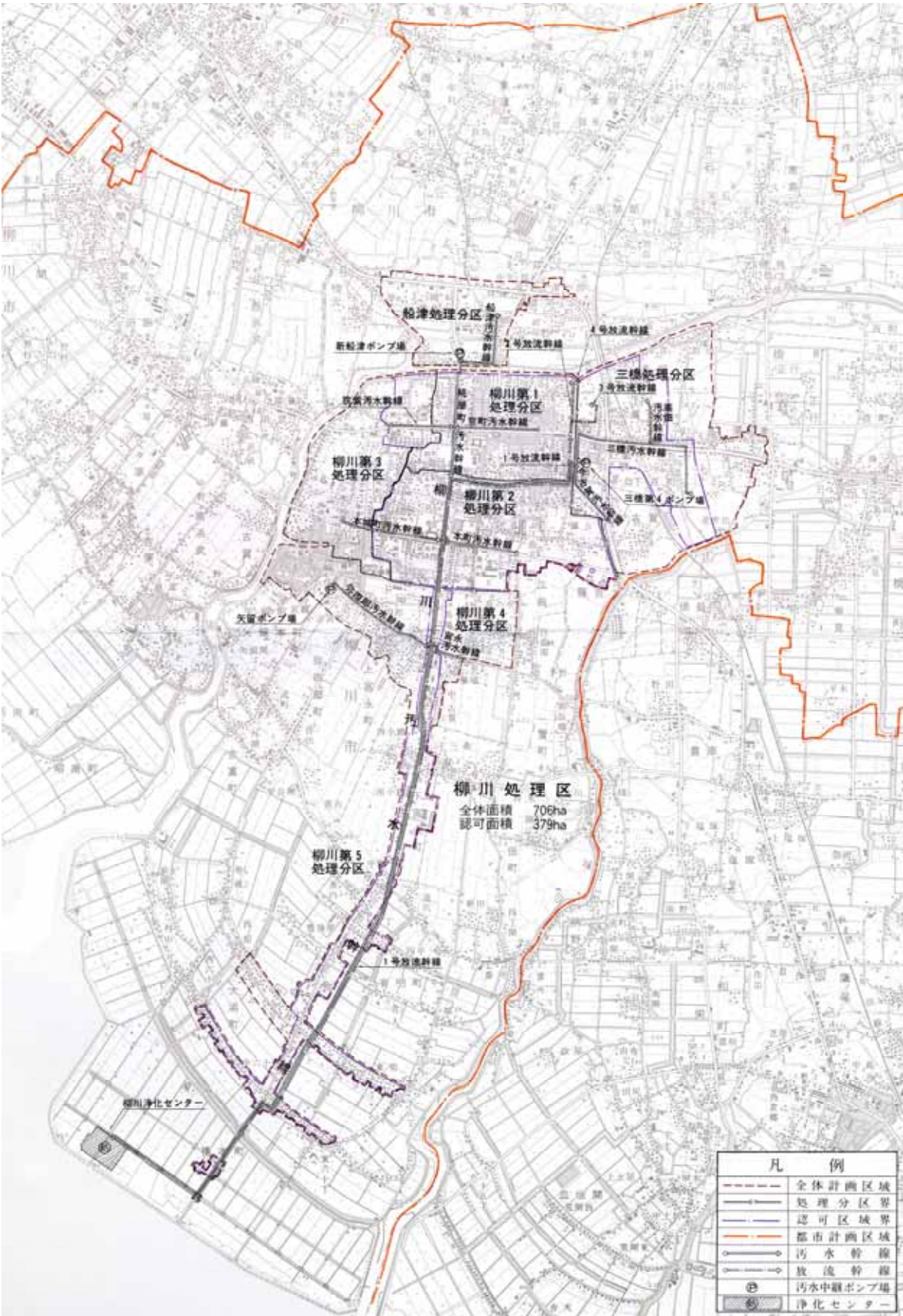


図1-1-7 公共下水道計画図（平成16年10月作成）

資料：市下水道課